環　境　教　育　実　践　セ　ン　タ　ー　だ　よ　り

緑の風

京都教育大学　環境教育実践センター　発行　　第１０号　２０１２年　１０月２５日

自然と人のくらし　懐かしの木々　農業実習　環境教育研修会　プロジェクト2041　センター動向　スタッフから

10月のセンター農場

自然と人の暮らしを省みる　−ニュースレターによせて−

学長　位藤紀美子

幼稚園入園前

60年以上前、敗戦後の物のない時代でしたが、私の育った愛媛県の小さな城下町（大洲市）は、空襲にも遭わず、山紫水明の地と歌われるほど自然は豊かでした。昭和22年、父の勤めの関係で、家族でその父の郷里に戻ったものの、住む家もなく、やむなく町から自転車で1時間近くかかる村で、農家の屋根裏や隠居所の一間とかを借りて住みました。台所などないので、父は親戚の山から赤土を掘り出し、手作りの竈を作り、薪は、同じく山に行き枯れ木などを父は天秤棒で母は背負子で（ついでに私も父と同じに小さな天秤棒で）担いで採って来ました。食料に関して、穀類などは母が近所の農家から父に内緒で自分の着物との交換で分けてもらっていたようです（後年、母から聞きました）が、父は別の親戚の山畑を借り、日曜などにいろいろな作物を植え、家族が食べるものを賄っていました。甘藷も大根も人参も根だけでなく葉も蔓もおひたしなどにして、それなりにおいしくいただきました。ご近所からの卵等のいただきものもありましたし、土筆や蕨、独活、野蒜、蕗といった山菜など、子どもでも遊びながら採ることができ、季節の味として楽しみました。洗面器に穴があけば、父がハンダづけで直してくれます。必要なものは、父か母が身近にあるものから工夫して手作りで整えてくれましたので、私自身は、不自由も不足も感じることはありませんでした。3歳から5歳頃までの記憶です。

幼稚園時代

幼稚園に入る頃、ようやく町のはずれにある別荘を借りることができました。山の中腹にある林を切り拓いての一戸建て。専用の井戸や屋内に台所もあり、親子3人には十分の広さ、間取りでした。桜の大木が門になっており、庭も広く、いろいろの樹木があり、父は、裏に物置小屋を作ったり、手作りの畑に野菜ばかりでなく様々な花も植えたりして、住みやすく工夫していました。ただ、窓からの眺望がすばらしい代わり、山道を少し広げただけの急な坂道を上り下りするのは骨でした。父と私は、それぞれの自転車に荷物を積んだまま押し上げましたし、母は井戸が夏枯れするため、坂下の豆腐屋さんの井戸から桶で水を汲み上げなければなりませんでした。

小学生時代

私は、2年生の頃より、その家で兎や鶏や十姉妹などを飼い、餌係でした。子兎が忽ち大きくなり、時々運動がてら野草を食べさせるために山に連れ出すのに、首に縄をつけると全身でぐいぐい引っ張る力が強くなり、まるで綱引き試合のようになり、終いに私が引きずられる始末。そのたび出会う近所の人に笑われました。それでも、「うさこ」（雄）は、姉兄を早くになくした私には弟妹同様でした。

3年からは、鶏（雄1羽、雌10羽）を飼いましたが、毎日の餌の量が半端でなく、買って来るのも、それに貝殻等を金槌で砕いて混ぜて与えるのも、毎朝鶏たちに突かれながら卵を集めるのも私の仕事。さすがに小屋の掃除は、父がしてくれました。あるとき、けたたましい雄鶏の叫びに小屋に行ってみると、両羽を広げた雄鶏の首に蛇が巻き付いており、その背後に雌鶏たちがかたまって脅えていました。たまたま休みで父もいて、すぐに蛇をはずし、草むらに持って行き2度ほど叩き付けたあと、「二度と来るなよ」と逃がしました。懸命に卵と雌鶏をかばっていた雄鶏の勇姿といかにも失敗したなという感じでこそこそと藪の中に逃げ込んだ蛇の様子が印象的でした。

自然とともに

蛇は家の周りにたくさんいて、紫陽花の木の根元にとぐろを巻いていたり、坂道の真ん中に何匹も日向ぼっこをしていたり、屋根裏に家主の大きな青大将がいるようだと聞かされたりしていましたので、蝮等の毒蛇でもなければ恐れることはないと知っていました。

夏夕食後天候が良ければ、親子3人で1時間ほど散策に出かけ、田畑地帯から街の中をぐるっと回り、戻ってくると、9時頃まで、庭の縁台に座ったり寝転んだりして、星空を見上げながら、歌ったり話したりしました。体の火照りがおさまったころ、真っ暗な家に入り（開け放しなので、灯をつけると虫が入ってくるため）手探りで押し入れを開けて、寝る支度をするのですが、時々布団の上の物を手探り父の寝間着の帯と思い蛇を引き出すことがありました。

家の裏側が林なので、色々な生き物が家に迷い込んで来ます。明け方飛び込んできた梟が物干し竿に留まったまま昼を過ごし、夜中に戻っていったこともありました。人間を見ても、驚きも慌てもせず平然と振る舞いそのうち去っていくのがほとんどでした。人間も他の生き物も、自然の中で、各々の暮らしや営みを続けるのに懸命でした。

自然は、四季折々の恵みや楽しみとともに、時に災害の怖さを教えてくれました。地震、雷、火事はいうまでもなく、台風や大雨による洪水など、年中行事でした。

（注）前号に学長の文章を掲載しましたが，じつはその前文に上の文章が書かれていました。一度に掲載することはできませんでしたので，今号と２度に分けて掲載させていただきました。

前号では，昭和３０年以降からの生活を振り返りながら，環境教育センターの重要性に思いを馳せ，今後の発展への期待を書いてくださっていましたが，今号は，人間が自然の営みとともに生活していた３０年以前のくらしの様子をありありと書いておられます。福島以降，私たちのライフスタイルについて見直す機運が高まっていますが，そうしたことを考える貴重な文章だと思います。（O）

（キクイモの花）

懐かしの木々(8)

一万本の苗木の顛末（その1）

田渕春三（本学名誉教授）

「１００種以上、約一万本の苗木要りませんか」、晴天の霹靂に我が耳を疑った。

環境省京都御苑管理事務所の森樹木科長さんからの電話で、昭和５７年９月末のことだった。数が数だけに頭の中は大混乱、とりあえず「他所には云わず、押さえておいてください」と返事。何処にどのような苗木が如何なる状態であり、移植の条件、場所は・・雲を掴むような状況の中で私の人生でも二度と有り得ない有り難いお話と捉えた。かねてから学園に多彩な樹種による植樹の必要性を緑化、美化、教材化の観点から痛感し細々と実践していただけに、この話を生かして一万本の苗木にその所を得さしめねばと御苑に詳細を伺った。

何とも幸いなことに、ご提供くださるのは大学からも程近い林業試験場関西支場（現在の森林総合研究所関西支所）、つとに樹木のことでは多大なご支援をいただき、お二人の技師の方とは親交のある仲、早速に佐保部長を訪れ具体的な内容を教えてもらった。試験場では日本固有の樹木育成のため外来種、園芸種の多い苗圃の木々を処分する必要があったこと、目録によれば苗木は４４科、１２５種、10,800本に及びナギ、ミヤマハイビャクなどなど貴重なものが目白押しで、現場では約２０ａの苗圃にびっしりの苗木を目のあた

りにして興奮を抑えることができなかった。フウ、キジュなどのように４～５ｍにも達するものもあったが大半は手頃の大きさで、期限が半年の条件なら何としてでもやり遂げようと具体策もないままに独断でお受けしてしまった。

（大きく育った学生会館南のフウ）

ところで京都御苑から何故このような話が舞い込んで来たのだろうか。思い当たる節があった。前年、伏見のＳ小学校に広瀬校長を訪ねたところ秋に全国規模の研究発表会があるとのことだったが、客を迎えるには緑の少ない裸の学校とお見受けした。そこで緑化計画書を策定し、樹木はまた林業試験場にお願いして立派な数十株の提供を受け、ＰＴＡの人達と共に植栽した。これが新聞の小さいベタ記事で紹介された。これを見られた御苑ではこの学校ならとクロマツの成木１０株余りを植えませんか、と広瀬校長に連絡があり私にも伝えられたので、附属高校の中庭にも２株を植えてもらった。その後、広瀬先生と御苑の管理事務所にお礼に赴き所長さん、樹木科長さんと四人で樹木を巡って歓談，時を忘れた事があった。こんなご縁が大事業に結びついたのに違いはない。かくして一万本の植樹が緒についた。（つづく）

「農業実習Ⅱ」スタート

後期がスタート。前期に植えた稲の収穫から始まりました。本学の学生に加えて，コンソーシアムで受講の他大学の学生，ベトナムからの留学生，京カレッジの市民のみなさんなどで，農業の楽しさ，素晴らしさを味わっています。

（全員で稲刈り　10/1）

（刈ったイネを干しています　10/1）

（脱穀の様子　10/15）

（柿の収穫　10/22）

地球と地域の再発見　−持続可能な社会を築くための環境教育研修会−

さる7月27日(金)から２８日（土），丹後海と星の見える丘公園（宮津市里波見）にて，表記の環境教育研修会を実施しました。

プログラム内容
27日（金）
「漂着物から見える生活と環境」
　安松貞夫（琴引浜ネイチャークラブハウス・館長）
「環境保全と経済活動」
　石川誠（社会科学科・教授）
28日（土）
「石から見える地球の歴史」
　田中里志（理学科・教授）
「今、地震を考える」
　谷口慶祐（理学科・講師）
「46億年地球の道」
　清水睦（地球デザインスクール）

（岩石標本製作中）

（谷口慶祐先生の地震講座）

（地球デザインスクール清水睦さんの「46億年地球の道」講座）

全コース修了者の表彰式

研修会のすべてのプログラムを受講した人には，学長から修了書を授与されます。今年は，４名の修了者が出ました。京都府北部の小学校の先生には郵送しましたが，他の３名の方には，８月２０日に，学長から直接授与されました。

（学長から賞状を授与される本学院生の寺下君）

（修了者を囲んで。学長室で）

「プロジェクト2041」

京都府北部の環境ネットワークの構築を目指すプロジェクトがスタートしました。本学提案のプロジェクト2041の実施を確認し，今後とも情報交換を行っていくことになりました。これが進めば，京都府北部に，本学を中心として，地方自治体，地域NPO等との環境教育を目的としたネットワークができあがります。

日時　９月２２日（金）
会場　京都府立丹後海と星の見える丘公園　研修室
10:00～12:00　各団体の活動紹介と交流
13:00～15:00　研修会
記念講演「丹後の地質と日本列島の生いたち」　本学教授　田中里志氏
参加団体
京都教育大学，地球デザインスクール京都府文化環境部環境・エネルギー局自然環境保全課，宮津市自立循環型経済社会推進室，宮津市産業振興室，宮津市エコツーリズム推進協議会，京都府立青少年海洋センター，ＮＰＯ京都発・竹・流域環境ネット，里山ねっとあやべ，琴引浜ネイチャークラブ・ハウス，宮津市の漁師嶋崎夫妻

（午前中のプロジェクト発足会議）

（午後の田中里志先生による記念講演）

地域の園児たちが，サツマイモ掘りに

秋の収穫の時期となって，農場にはイモ掘りに訪れた子ども達の声がひびいています。

（大きなイモがとれたよ）

センター時暦

8月7日（火）免許更新講習　環境教育入門　岡本、田渕、梁川担当
8月10日（金）免許更新講習　植物再生と簡便な無菌培養　梁川担当
8月27（月）学園祭実行委員　コスモス播種
8月28日（火）京都市立神川中学校　キク挿し穂採取　生徒と教員
９月7日（金）環境教育研修講座　京都市教育委員会、エコロジーセンターとの共催　於　エコロジーセンター
9月11日（火）学園祭実行委員コスモス播種
9月18日（火）環境教育実践センター所員会
9月22日（金、祝）プロジェクト2041、於　京都府立丹後海と星の見える丘公園
9月26日（水）附属特別支援学校高等部稲の保護のためのおどし設置
9月27日（木）ボランティア「槐の会」活動　センター花壇植え付け、除草、他
10月4日（木）附属幼稚園　サツマイモつる採り　年長児60名
10月10日（水）附属特別支援学校高等部稲刈り　高等部生徒30名と教員11名
10月11日（木）附属幼稚園　サツマイモ収穫及びセンター見学　年長児、年中児計135名
10月17日（水）墨染保育所　〃　30名
10月18日（木）西福寺幼児園　〃　76名
10月19日（金）ひかり保育園　〃　15名
10月24日（水）みどり保育園　〃　40名
10月25日（木）伏見住吉幼稚園〃　80名
10月26日（金）うずらの里児童館　〃　90名
10月26日（金）ボランティア「槐の会」活動　センター内清掃、除草、他

スタッフから

岡本正志
センター南に，７階建てのマンション建築が持ち上がり，農場の日照に大きな影響が出そうです。業者と交渉していますが・・・。ためいきが出ます。

辻　俊夫
センターでは幼稚園等のサツマイモ掘り遠足に多くの園児たちが集い、元気な歓声を上げて芋堀を楽しんでいます。大きな芋を持ってうれしそうにしている姿をみると暑い中しっかり育ってくれたなぁ、とホッとしました。

志賀真人
実りの秋，今年のサツマイモは形も大きく実なりも多くて，おイモ掘りに来られた幼稚園や保育園の園児たちの賑やかな歓声がセンターに響きわたっています。お芋の次は落花生。秋を感じにセンターに脚を運んでみてはいかがですか。

編集後記　収穫の秋。編集子の庵では，柿，栗，サツマイモ，落花生，大豆の収穫におおわらわです。急に寒くなってきました。風邪にご注意ください。（O）